

2020年07月21日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

大煌工業／合材運搬車両のシート巻き上げ装置を改良／作業時間短縮



手動式にすることでシートをかぶせたり収納したりする時間が短縮した

運送会社の大煌工業（埼玉県川口市、山下将弘社長）は、アスファルト合材運搬車両の荷台シートを巻き上げる装置を改良した。巻き上げ方法を電動式から手動式に変更。シートを掛けたり収納したりする時間が短くなる。利用前の講習を受ける必要がなくなり作業者の負担も軽減した。合材の上にかぶせるシートの保温性も高めた。装置は既存の車両に後付けできる。

同社が2018年に大林道路と共同開発した「オートシート煌（きらめき）」を改良した。大蓉ホールディングスのホームページ（<http://www.taiyouhd.co.jp/products/>）かFAXで注文を受け付ける。年間目標販売台数は450台。既に大林道路から150台の注文を受けているという。

オートシート煌は運搬車両の荷台にかぶせているアスファルト合材の保温シートを巻き上げる装置。荷台のシートをかぶせたり外したりする際に、作業中のドライバーが荷台から転落したり、やけどを負ったりしないようにすることを目的に開発した。改良前の電動式ではシート掛けとシートの巻き上げにそれぞれ5分かかっていたのを、手動式にすることで各1分に短縮した。

保温シートには特殊合材シートとアルミ箔（はく）シートを組み合わせた新素材を採用し、保温性を高めた。麻と耐熱シートを組み合わせた従来のシートを約160度の合材に掛けた場合、3時間後の合材の温度が18・5度低下するのに対し、新素材のシートは9・4度の低下にとどまる。改良ではさらにシートの防水性を高め、軽量化したことでより扱いやすくなった。

電動式の装置は、ドライバーが利用前に労働安全衛生法で規定された「巻き上げ装置特別教育」を受講する必要があったが、手動式になったことで受講が不要になった。

合材を運搬する車両のシートの着脱作業は通常、ドライバーが行う。オートシート煌ができる前は、ドライバーが荷台に上がってシートを扱っていた。荷台の昇降時に転落する危険がある上、合材は200度の高温に達する場合もあり、荷台の上で合材に触れてやけどする懸念もあった。

[閉じる](#)

記事ID：3202007210307

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます